

四の宮やま

平成二十年十一月二十四日

(編集・発行)
赤田神社務所
九二七五二

秋祭り 大盛況

去る十月二十一日に、赤田神社例祭、秋祭りが行われました。

前日や当日早朝から、総代や実行委員のみなさんにより、神事や模擬店の準備が行われました。

午前九時。御神輿が担ぎ出され、御旅所になる中村町内の古四之宮に向けて出発しました。

境内には、実行委員さん、良城小おやじの会、ケーキンョップポムさん(小郡下郷駅前)のお店などが立ち並び、終日たくさんの方で賑わいました。

ご奉仕くださった多くの皆さん、ありがとうございます。

歌声は響く

奉納行事は、良城小PTAコーラスの歌声ではじまりました。『村まつり』は、唱歌でなじまれています。最近ではあまり聞かなくなりました。

秋祭りにふさわしい曲で会場になごやかさが漂いました。

続いて、良城小合唱団の合唱です。

今年行われたNHK合唱コンクール中国大会で、見事に金賞に輝いた、まさに磨き上げられた歌声は、屋外

とは思えないほどに境内に響き渡り、その熟度はいうまでもなく、子供達の純粋さが、聴くものを魅了し、心洗われる思いでした。余韻名残惜しくも感じる温かい歌声でした。みなさん素敵な歌をありがとうございました。



四宮をいよなく愛ついで

鷺流狂言

鷺流狂言の方は、通常のステージで演じるのは違い、古の人の演じていた形に近いのではという思いから、赤田神社での出演をとて楽しんでいただいております。

今年、『不毒(ぶす)』が奉納されました。

山口市の伝統的な芸能として、これからも守り続けられることを期待しています。



ふるさとの大切な芸能

奉鳳 鳳太鼓

鳳太鼓は、吉敷きつての伝統芸能です。

小さい子供から大きい子供までのメンバーですが、日々の稽古が十分足りている様子が、撥捌きに表れていました。

鳳太鼓の指導者田口比路志さんは、子供達に、毎回の単純な稽古でもおろそかにすることなく、真剣に取り組むことを、言い聞か

せているとのこと。そうすれば、少しずつできるようになって、難しい曲もたたけるようになる。成長の実感を感じて自ら味わってほしいと言われていました。そして、太鼓を通じて関わった子供達が、将来この吉敷のふるさとづくりの要になって、素敵な吉敷にしてくれたらいいなあ、と言う願いを持っておられます。

これからも、会の発展、ご活躍をお祈りしています。



美しくも雄々しい

石見神楽

続いて、島根県柿木地区の白谷社中による『大江山(おおえやま)』と『大蛇(おろち)』の二番の神楽が舞われました。金糸銀糸で刺繍された衣装は一着百万円以上とか。鬼が五体で五百万円以上の舞です。

迫力と研ぎ澄まされた切れの良い舞は、衣装にも勝り、日本の伝統文化の懐の深さを感じさせました。



白熱の女尻相撲

お祭りの終盤に新企画の女尻相撲がありました。出場力士は十六人。初めてのことでどうなるかと興味しんしんに観戦しました。

当初はなでしこの上品な取り組みかと思いきや、非常に真剣な戦いが繰り広げられました。決勝戦では、押し出した弾みで、両者が土俵下まで転がり落ちる光景は、大相撲の千秋楽の優勝決定戦をも凌ぐ様で、見る人の喝采を浴びていました。



氏神様に初詣

元日午前零時から、新年を迎えたことを神様に報告し、国家の安泰と氏子、崇敬者の一年の平安を祈念する『歳旦祭』を行います。

また、その頃より大焚火をして、皆様のご参拝をお待ちしております。
まず氏神様に初詣をすませて、爽やかな気持ちで新年をお迎えされてはいかがでしょうか。



福ささに吉兆つけて

開運招福

お正月には、福ささを差し上げています。
これに、吉兆と呼ばれる小槌、小判、鯛などの飾りを付けます。

それを持ってえびす様にお参りして願をかけて家に持ち帰る慣わしが、全国の恵比須神社で続いています。



初えびす くじ引き

一月三日

えびす様は、開運招福、農林水産業、工業、商業など諸産業の守護神として信仰されていて、その福を分かち戴くということから、毎年正月三日の祭礼には、福引きを執り行っています。



※ くじは、なくなり次第終了

特賞 福枘 (ふくます) 開運招福の縁起物
(副賞 テジカメほか)

節分 二月三日 厄除け、星祭祈願祭

節分には、家族のみなさんの厄を祓って一年間の無病息災と家内安全を祈願する習わしがあります。厄年のお祓いもこの日に行います。

祈願、お祓いで一番大切なことは、日常生活や人生の折り

目節目に、敬虔な気持ちで神様にお祈りし、心あらたまることです。
清々しい気持ちで新しい一年を過ごされてはいかがでしょうか。

◇日時 二月三日

◇受付 午前九時～午後七時まで

◇厄年 (数え年)

(男)

二十五才 (昭和六十年生まれ)

四十二才 (昭和四十三年生まれ) 大厄

六十一才 (昭和二十四年生まれ)

(女)

十九才 (平成二年生まれ)

三十三才 (昭和五十二年生まれ) 大厄

三十七才 (昭和四十八年生まれ)

※ 厄の前後の年が、それぞれ前厄・後厄

